

## 東北アジア学術交流懇話会ニューズレター

## うしとら

## 第71号

## ● Contents ●

論点：中国内モンゴル訪問 .....	岡 洋樹	1
<b>Topic:</b> My Visit to Inner Mongolia .....	(OKA Hiroki)	1
東北アジア通信：モンゴル語辞典とインターネット .....	栗林 均	2
わたしのリサーチ術：さまざまな人と寝・食・動を共にする .....	井上 岳彦	3
<b>Northeast Asian Reports:</b>		
Mongolian-Chinese Dictionary on the Internet .....	(KURIBAYASHI Hitoshi)	2
Between Historical Research and the Life in Study Area .....	(INOUE Takehiko)	3
会員の広場：北東アジアとの関係強化を .....	中川 十郎	4
<b>Members' Forum:</b> Strengthening and Deepening the Relation and Study on Northeast Asia and Eurasia .....	(NAKAGAWA Jyuro)	4



## 中国内モンゴル訪問

東北アジア学術交流懇話会理事長  
東北大学東北アジア研究センター長  
岡 洋樹



本年（平成28年）11月7日から14日まで、内蒙古大学蒙古学研究中心の招きで、同大の教員・学生を対象に講演をするために、中国内モンゴル自治区の首府呼和浩特を訪問した。呼和浩特訪問は久しぶりのことである。三回の講演の合間に、同大のグルマ副教授らの案内で、同自治区錫林郭勒盟南部の多倫県を訪問する機会を得た。呼和浩特から多倫県までは700キロほどある。一昔前なら、モンゴル地方で自動車による700キロの移動はちょっとした旅だったろうが、呼和浩特から高速道路でわずか6時間半、驚くほど快適な旅だった。この道路は、呼和浩特からウランチャブ市南部を通り、河北省との境に沿って自治区南部を走る。この地域は、かつてチャハル（察哈爾）八旗と呼ばれた地方である。車窓の眺めは、果てしなく遊牧地が広がるモンゴル国の様子を見慣れた私にはかなり珍しいものだった。ここにはすでにモンゴルのゲル（天幕）が点在する遊



写真1. 草原の風力発電

牧の風景は無く、定着村落の周りに農耕地が広がり、牧畜が行われている地域では広い草原を小さく区切る柵が目を引いた。中国ではモンゴル国とは

異なり、牧地が牧民家庭に分配され、柵で仕切られているのである。畜群も見かけたが、羊群を逐っていた牧民は徒歩だった。柵でしきられているので馬を使う必要がないのだという。途中商都から化徳あたりには、巨大な風力発電のプロペラが林立していたが、ちょっと異様な光景ではある（写真1）。

多倫県では、元の上都遺跡と清代のチベット仏教寺院彙宗寺を見学した（写真2）。彙宗寺の案内をしてくれたのは、郷土の歴史家任



写真2. 内モンゴル多倫県の彙宗寺

月海氏と、同寺の住持ソドスチン氏であった。同寺は、第二次世界大戦終戦時のソ連軍の侵攻と文化大革命で大きな被害を受けたが、現在政府の資金で破壊された寺の建物を再建しており、ラマも12名いるのだという。ごちそうになった昼食の席で、ソドスチン氏は寺の復興に向けた抱負を熱っぽく語ってくれた。帝国の都の遺跡と大きく変わる伝統的な遊牧民の生活と仏教の復興、そして整備された道路網と巨大な風力発電施設が醸し出すなんとも言えない不協和音。そこには伝統だけでも科学だけでもない変わりゆく内モンゴルの現在の姿があった。

## 東北アジア通信

# モンゴル語辞典とインターネット



東北大学東北アジア研究センター教授  
(モンゴル・中央アジア研究分野)

栗林 均

東北アジア研究センターと中国の内蒙古大学蒙古学学院は、2008年に学術協定を締結して以来、『蒙漢詞典』の電子化に関する共同研究を行ってきた。これは、1999年に内蒙古大学出版社から出版されたモンゴル語・中国語辞典『蒙漢詞典 増訂本』をパソコンやインターネットで利用できるように電子辞書化するプロジェクトである。共同研究の成果として、現在センターのホームページにはインターネットで「だれでも・いつでも・どこでも」利用できる「Web版蒙漢詞典」が公開されている。(図1)



図1. 「Web版蒙漢詞典」 <http://hkuri.cneas.tohoku.ac.jp/p01/>

「Web版蒙漢詞典」の元となった『蒙漢詞典』は、中国内のモンゴル族が使用する現代モンゴル語の標準的な辞典として定評がある。収録語数は主見出し語と熟語を合わせて5万3千以上の項目を含む大型辞典で、1977年に初版が出版されて以来、収録語彙の豊富さと、信頼性の高い内容によって現代モンゴル語の書き言葉の規範としての地位を確立してきた。1999年には、初版の内容を改訂・増補した「増訂本」が出版され、新たにすべての見出し語に発音記号で標準語の発音が付された。(図2)

モンゴル語の書き言葉は13世紀以来の綴りが基本的に継承されており、それは現代のどの口語(方言)の発音とも大きく異なっている。モンゴル語の学習者は、綴りと発音を別々に覚えなければならないので、単語の発音を辞書で知ることができる恩恵は計り知れない。また、中国内のモンゴル語は多くの方言からなり、方言間の差異も大きい。モンゴル語の標準音(標準語の発音)が制定されたのは1980年になってからのことであるが、現在も普及が進んでいるとは言い難い。『蒙漢詞典』の見出し語に発音が付されたことは、口語の規範として標準音の拠り所となった。

「Web版蒙漢詞典」では、『蒙漢詞典 増訂本』のすべて

の情報を電子化テキストとして利用することができる。Internet ExplorerやFirefoxなどのWebブラウザ上で動作するので、パソコンがインターネットに接続されているだけで使うことができる。検索窓でキーボードのキーを押せば、自動的にモンゴル文字に変換され、モンゴル文字でモンゴル語を検索し、結果が表示される。

電子辞書の利点を生かして、単語の「前方一致」「後方一致」「部分一致」といった検索方式が提供されている。「全文検索」では、中国語の訳語やモンゴル語の用例も含めて辞書の本文をまるごと検索することができる。

「あいまい検索」は、文字の正しい読み方が分からなくても単語を検索できる機能である。モンゴル文字には、字形が同じで複数の音を表す文字が多い。たとえば、子音字のtとdは同じ形であり、kとgも同じ形である。同様に母音字のoとuが同じ形で、öとüも同じ形である。綴りを見ただけでは文字の区別ができないという学習者泣かせの文字ではある。

これはモンゴル人にとっても悩みの種のように、標準音を習得していない多くのモンゴル人にとっては、これらの区別が難しく、辞書を引くのも容易でない。「あいまい検索」では、どちらの文字で検索しても両方の文字がヒットする。正しい読み方が分からなくても、とりあえずいずれかの文字で検索すれば、その字形をもつすべての単語が表示されるので、その中から目指す単語を見つければよい。

「Web版蒙漢詞典」には紙の辞書にはない音声データが付加された。主見出し語約2万6千語のすべてに標準音の録音データを付し、発音記号欄のアイコンをクリックすると単語の発音が再生される。発音記号は一般の利用者にはなじみが薄いと思われることから、発音を直接聞くことができるようにしたものである。

このように、「Web版蒙漢詞典」はモンゴル語の学習者・研究者だけでなく、中国内のモンゴル語使用者が便利に利用できることを目指している。



図2. 『蒙漢詞典 増訂本』  
(内蒙古大学出版社, 1999)

## 東北アジア通信

### わたしのリサーチ術： さまざまな人と寝・食・動を共にする

日本学術振興会特別研究員PD 井上 岳彦  
(東北大学東北アジア研究センター)



#### 1. 「モンゴル」といえば

草原。モンゴル国から西へ西へと、ずっと行っても草原は続く。これはハンガリーまで続いている。この中央ユーラシア草原地帯とコーカサス回廊のぶつかるところに、私の調査地カルムイク共和国がある。ここに住むカルムイク人は、国民としてはロシアという連邦国家に属している。とはいえロシア人でも、どこにあるのか知らないことも少なくない。知っていたとしても南の方にある貧しい国という程度の認識がほとんどである。民族としては、カルムイク人はオイラト人という集団に属している。オイラト人は中国やモンゴル国に多く住んでいるが、彼らは独自の国家や高度な自治をもたず、少数派であるロシアのカルムイク人のみが連邦構成主体としての共和国をもつ。しかしロシア南部に散らばる、こうした小さな共和国を解体・統合し、行政的にも経済的にも「効率化」を進めようとする動きは以前からあり、カルムイク共和国がいつ消滅してもおかしくない状況である。また、カルムイク人はチベット仏教を信仰しているが、ブリヤート人やトゥヴァ人といったロシアのそのほかの仏教徒と比べると、仏教界におけるプレゼンスはずっと分かりにくい。

そのためカルムイク人は、国家、民族、宗教といった枠組みにおいて「周縁」的存在として捉えられがちだった。こうしたあまり語られない人々の歴史を再現することは、はたして可能なのか。



写真1. 草原とクルマ

#### 2. 寝・食・動を共に

ロシア帝国、ソ連、ロシア連邦、どの時代においても、その「公式の歴史」は非常に強力であり続けてきた。ロシアの公定史観から閑却されてきた社会に接近するにはどうすればよいか。私なりに考えついたのが、多角的視点からの歴史叙述である。そこで、未公開の一次史料にこだわることで、できるかぎりさまざまな史料群から文書を探し出すこと、これらふたつを心掛けた。必要なことは、多くの地方の文書館を回ることであった。

ロシアの地方を回るのが最も有効な交通手段は、バスである。ソ連時代には小さな都市間にも航空網が整備されていたが、今はバスがその代わりを担う。バスのなかは面白い。どの人も政治や社会に対して一家言をもっているものだ。もっとも盛り上がるのは民族間関係の議論である。何時間も乗車するあいだに、ある民族の歴史について「講義」を受けることもある。



調査地で 写真2. 現代の牧夫

の宿泊は、寮と決めている。寮には入れ代わり立ち代わり、さまざまな地域から、さまざまな背景をもつ人々がやってくる。彼らと寝食を共にしていると、ロシアの時事問題を日々追っていても見えてこない世界の存在に気づかされる。何年も経ってから、たわいもないおしゃべりの意味を理解することもある。

イギリスの歴史家E・H・カーは、著書『歴史とは何か』(1961年)のなかで、「歴史とは現在と過去との絶え間ない対話である」という有名なことばを残した。つまり、歴史とは、歴史家が研究する時代の思想を歴史家の心のうちに再現することであるが、けっきょく現代の眼を通してしか過去を理解することはできない。ロシアの公定史観の背景にある思想をさぐり、その「公式の歴史」を読み解く。「公式の歴史」と、そこで語られない社会の歴史の関係性を別出する。このとき、寝食や移動のなかで獲得した多様な視角というものが、大いに理解を助けてきた。

#### 3. 調査習慣の内面化

長い研究生活のうちにいつからか、こうした私なりの調査生活の習慣は内面化し、日本においても似たような行動を取ってしまうようになった。何か用事があったどこか他所に行くと、まず銭湯を探してしまう。湯船に漬かりながら、隣のおじさんと世間話をしたり、地元の人の会話に耳をすましたりしてしまう。風呂から上がると、今度はその近くの赤ちょうちんに吸い寄せられてしまう。暖簾をくぐり、大将やカウンターの客とあれやこれやおしゃべりしながら、盃を傾ける。すると、その土地のことがよく分かり、そこに生きる人々の世界の一端を垣間見ることできる。カルムイク調査の習慣は、生活と研究の場としての日本の多様性をも気づかせるのである。

## 会員の広場

### 東北アジア学術交流懇話会

お互いの交流拡大を目的に、会員皆様の近況・ご意見などを発信していただくスペースです。今回は、NEASE-Net（北東アジア研究交流ネットワーク）幹事・国際アジア共同体学会理事長・名古屋市立大学22世紀研究所特任教授の中川十郎先生に今後の日本と北東アジア地域との関係強化の必要性について語っていただきました。中川先生の主要著書としては『東アジア共同体と日本の戦略一何をどう進めるべきか』（国際アジア共同体学会編、2011年、桜美林大学北東アジア総合研究所）、『北東アジアのグランドデザイン—発展と共生へのシナリオ』（北東アジアグランドデザイン研究会編、2003年、日本経済評論社）などがあります。

## 北東アジアとの関係強化を

中川 十郎



NEASE-Net（北東アジア研究交流ネットワーク）幹事  
国際アジア共同体学会理事長、名古屋市立大学22世紀研究所特任教授

2016年は変化が多いといわれる申年で、特に6月の英国国民投票でのEUからの英国の離脱（BREXIT）、11月の米国大統領選挙での大方の予想に反する共和党ドナルド・トランプ氏の勝利と国際的に大きな出来事が相次いだ。

さらに北東アジア関係では上海協力機構（SCO）へのインド、パキスタンの正式加盟により、北東アジア、ユーラシアに30億人の巨大経済協力機構が出現。中国主導の「一帯一路」、「アジアインフラ投資銀行（AIIB）」の稼働により、東アジアからヨーロッパへの物流、サプライチェーン構築、インフラ建設による貿易、投資拡大の加速が予想される。

あわせて北東アジアのモンゴルではソフトバンクの孫社長の風力・太陽光発電計画によるアジア、日本を結ぶ壮大なスーパーグリッド構想も具体化しつつある。この計画にはモンゴル、日本、中国、韓国、ロシア、インドさらに米国なども参加を表明している。

モンゴルは近年、豊富な石炭資源に加え、銅鉱床、金の生産も加速化しており、中央アジアの有力資源国として、中国、ロシアと首脳会議を開催。鉄道、道路建設など物流面でのプロジェクトでも三国の協力が進行中である。かかる状況下、ユーラシアにおけるモンゴルの動向にはこれまで以上の注目が肝要と思われる。



図1. 上海協力機構  
Shanghai Cooperation Organisation

海航路が実現すれば、19世紀のスエズ運河、20世紀のパナマ運河に匹敵する21世紀の画期的な世界物流革命が実現する。

ユーラシアを制するものは世界を制するといわれる。21世紀の世界経済発展の軸が米国からアジア、ユーラシアへ移動している現状、われわれはアジアの世紀、ユーラシアの世紀に向けて、アジア・ユーラシア研究をさらに強化すべきものと思われる。

米国ドナルド・トランプ政権の発足で米中、米ロの関係も好転が予想されている。2017年は北東アジアの研究がさらに重要になるとみられる。2015年末に発足のアセアン経済共同体（AEC）とならび北東アジアで動き出しつつある上海協力機構（SCO）との連携強化など東アジア地域経済連携（RCEP）ともあわせて幅広い研究がなされることを祈念したい。

目を北極海に転ずれば、ロシア北極海で日本の日揮が関与しているヤマル半島のLNG開発も軌道に乗りつつある。2018年には北極海を経由して通年でLNGが日本、韓国、中国に輸送される見込みである。LNGの輸送は中国海運公社と日本の商船三井、自走の砕氷付LNG船は韓国の大宇造船所が建造している。ロシアLNGエネルギープロジェクトにおいて日中韓の協力が具体的に進行中だ。2018年に年間を通じた北極



図2. 北極海航路



本号では、東北アジア研究センター創設以来様々な研究を重ねてきたモンゴルの国・地域に関する記事を掲載しました。モンゴル言語資料のデジタル辞書を作られた栗林教授、歴史分野で交流してきた岡、そしてロシアのモンゴル系民族カルムイクを研究している井上岳彦研究員に記事をいただきました。また会員の広場には、NEASE-Net幹事の中川十郎先生より最新の経済動向に関する記事をいただきました。モンゴルは世界有数の親日国で、今後の研究の発展が望まれます。（岡 洋樹）

“Ushitora” is a Japanese word for the “Ox-Tiger”; Northeast in the Chinese animal zodiac. (A.I.)

《うしとら》（東北アジア学術交流懇話会ニューズレター）第71号 2016年12月20日発行

発行 東北アジア学術交流懇話会

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内41 東北大学東北アジア研究センター一気付  
PHONE: (022)795-7580 FAX: (022)795-7580  
http://www.cneas.tohoku.ac.jp/gon2/ E-mail: gon@cneas.tohoku.ac.jp